



с к о р о г о в о р к и ~ 早 口 言 葉 ~

岩本 智子

ロシア語を学習されている方はご存知かも知れないが、世界一長い早口言葉はロシアにある。Лигурия という題名がついていて、イタリアの港町を舞台に始まる奇想天外な物語になっている。YouTubeで動画を見つけることができるが、達人だと2分半ぐらいで話す。文章を印刷すると2ページぐらいになる長編早口言葉である。

私達のイローナ先生のオンラインロシア語クラスでは、授業のはじめにскороговорки (=早口言葉) をやる。先生が早口言葉集を配布して下さり、各自宿題として練習し授業の冒頭で発表する。最初に取り組んだのは「Карлу Клара у Карла украла кораллы, а Клара у Карла украла кларнет.」である。意味は「カール君はクララちゃんの家で珊瑚を盗んだ。一方クララちゃんはカール君の家でクラリネットを盗んだ。」という教育的にはいかなものかという内容だがрとл(英語のRとL)の発音練習に最適である。

скороговорки をはじめたのは2020年4月頃、「コロナ禍」という言葉が生まれ人々の生活が変わり始めたころだった。コンサート等の計画されていた催しが無くなり、更には必要がなければ人と会ってはいけないということになって街が静まり返った。外出は買い物ぐらいである。一駅歩いてちょっと遠いスーパーに行くこともあった。歩いていると暇なのでКарлу Клара…と呟く。コロナでマスクをするようになったのでしゃべりながら歩いても気付かれず遠慮なく練習ができた。それまで私は巻き舌が出来なかった。子どもの時に英語を勉強し始め

たときにも、Rの発音は巻き舌を使うと教わった。友達のなかには「トゥルルル…」と練習しなくてもできる子もいたが、私はどうやったらできるのか皆目わからなかった。声質の問題で私には出来ないんだと思いこんでいた。何十年もそう思っていたが、この度また巻き舌問題にぶつかった。イローナ先生は巻き舌は練習すれば誰でも出来るようになる、とおっしゃる。毎日「カール君がクララちゃんの、、、」を練習したが1ヶ月ぐらいでは変化は現れなかった。しかし、2ヶ月したころにふと「出来た!」と思う瞬間が現れ始めた。そのうち、立っていると出来るが座ると出来ない、という時期があった。いつも歩きながら練習しているからである。オンライン授業では「立って話していいですか」と言ってタブレットを持ち上げて発表していた。そんなことをしているうちに、世の中はWithコロナと言われる頃になり、いつの間にか私は巻き舌が出来るようになっていた。

Лигурия も全員で挑戦した。みんなで意味を確認しながら少しずつ読み進め、最後まで出来たときは達成感があった。一度は全部暗記した。そうしないと歩きながら練習ができなかったからである。

イローナ先生のクラスはコロナ禍を機にオンライン化した。最初は画面越しで授業が出来るのかと心配したが、今では定着している。一時的に先生がベラルーシに帰られた時も授業を続けることが出来たし、現在もリモートワークが継続している受講生にとっても便利である。巻き舌もオンライン授業もやってみれば道が開けた。
(常任理事)